

ユニバーサルな社会資本整備を目指して

ユニバーサルデザインを活かした中国地方の地域づくりの基本目標

すべての人が安全で安心して快適に暮らせる元気な地域づくり

ユニバーサルデザインは“国土交通行政の5つの目標”及び“みらいビジョン中国21における地域づくりの4つの目標”を具現化する1つのツールとして捉え、今後の中国地方の社会資本整備の基本的考え方とし、年齢、性別、身体能力、国籍など人々が持つ特性や違いに関係なく『すべての人が安全で安心して快適に暮らせる元気な地域づくり』を目指す。

ユニバーサルな中国地方の将来像

ユニバーサルデザインの実践においては、各地域のポテンシャル(潜在力)を最大限に活かし、以下の特性を持った地域の形成を目指す。次頁以降に、ユニバーサルデザインが実践された中国地方の将来像イメージ(一例)を示す。

ユニバーサルな中国地方の将来像

安全で安心して暮らせる地域

美しく良好な環境と、個性豊かな地域

地域の特性を活かした競争力のある地域

交流・連携を促進し、活力あふれる地域

国土交通省5つの目標： 自立した個人の生き生きとした暮らしの実現、競争力のある経済社会の維持・発展、安全の確保、美しく良好な環境の保全と創造、多様性のある地域の形成
みらいビジョン21 地域づくりの4つの目標： 安全で安心して暮らせる地域づくり、個性豊かに暮らせる地域の創造、競争力のある地域経済社会の再構築、周辺地域の交流・連携と国際交流拠点の機能強化

ユニバーサルな都市部のイメージ(一例)

【トランジットモール¹化】

都市部では、交通機関の密な連携を図ることでトランジットモールを整備することが可能である。トランジットモールの整備は、都市内自動車交通の減少、歩行者の安全確保、騒音や排気ガスの減少等の効果が期待できる。

【主要施設を連携したペDESTリアンデッキ²】

鉄道駅と福祉・医療・商業施設などの主要施設を連絡することで歩行者が安全で安心して移動することができる。



(事例：北九州市小倉都心地区医療センタ - 前歩道橋)

【施設内のサインの工夫】

建物内では通路毎に色分けをし、部屋に番号をつけるなどの工夫で、利用者にとって現在位置や目的地が分かりやすくなる。



(事例：静岡県立中央病院)

【歩行者専用道路と建物との段差の解消】

歩行者専用道路と建物との境界には段差を設けずフラットとすることで全ての人がスムーズに移動できる。



(事例：北九州市小倉都心地区)

【多くの人に分かりやすいサインの充実】

動線の分岐点やレベルの変節点、街区の境界線などに、多くの人が利用できるサイン(音声案内、触知図、電光掲示板等)を設置する。また色の統一等の工夫を行えば、歩行者は、その周囲を見回さずすぐに見つけることができる。このことで歩行者は容易に目的地に辿り着くことが可能となる。



(事例：静岡県地下道)



(事例：阪急伊丹駅)

【選択性のある整備】

エレベーター(車椅子利用可能)、階段を併設することで、全ての人々が平等かつ自由に選択し移動ができる。また階段は2段手すりとする事で身長の高さに拘わらず多くの人々が利用できる。



(事例：呉市)

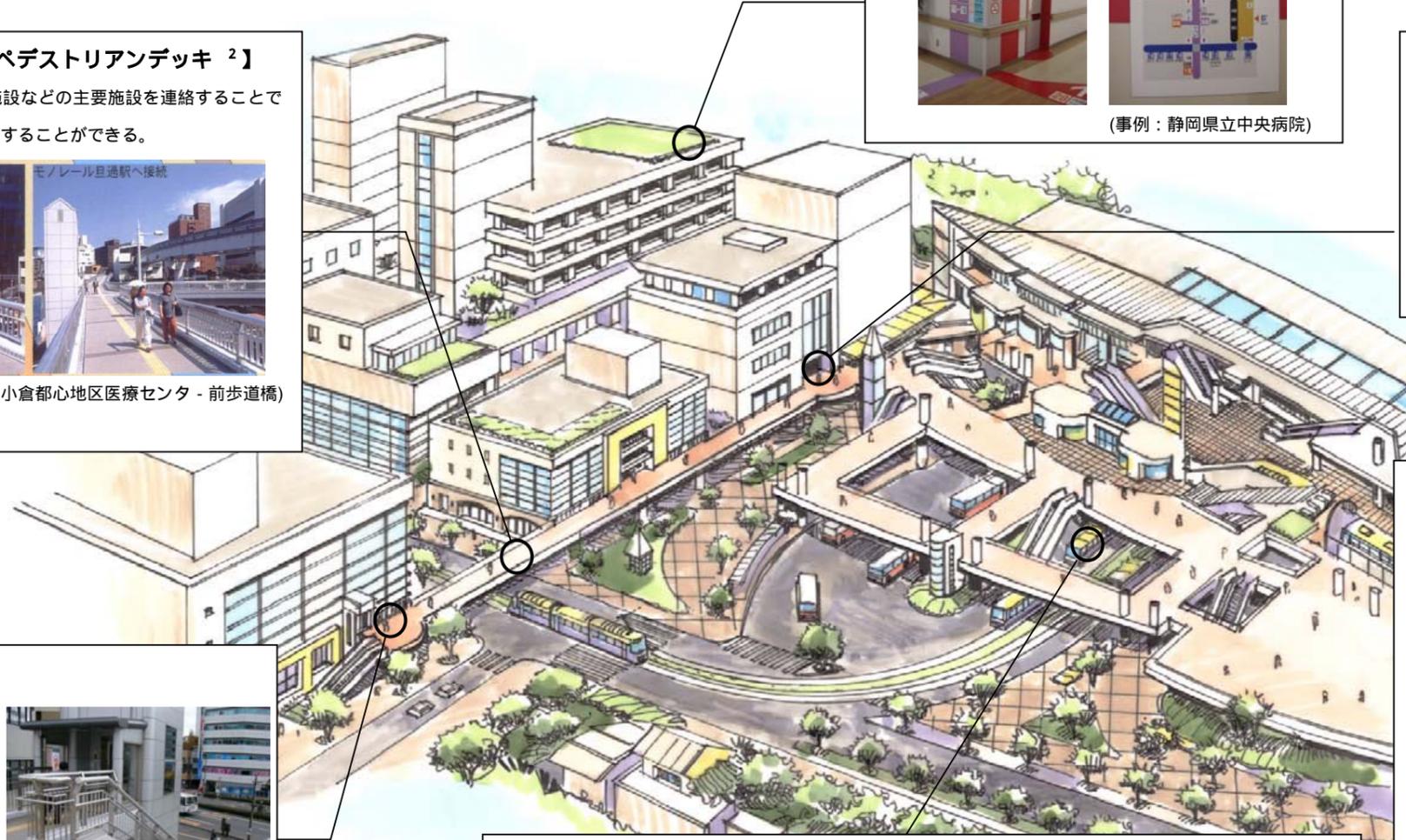
1 トランジットモール：中心街の通りを、一般の車両通行を抑制した歩行者専用の空間とし、バス、路面電車等、公共交通機関だけが通行できるようにした街路のこと。

2 ペDESTリアンデッキ：高架の歩行者専用の通路。駅前広場をまたぎ駅と建物をつなぐことや、建物同士を2階のレベルで結ぶことに用いられる。

【連続性のある整備】

乗り継ぎの経路に連続的に点字ブロックやひさしを設け空間的な連続性を持たせること、また乗り継ぎの時間を短くし時間的な連続性を持たせるなど、異なる交通機関間の連続性を確保することにより全ての人の移動が円滑となる。

(事例：JR 横川駅交通結節点改善事業)



ユニバーサルな住宅地のイメージ(一例)

【コミュニティバス¹、STS²の運行】

鉄道や路線バス等の公共交通機関の運行頻度が低い、または運行していない地域においては、コミュニティバスやSTSの導入により、高齢者や身障者等を始めとした移動制約者も自由に移動することが可能となる。

【地域の個性が反映され、愛着の持てる歩道づくり】

- ・ワークショップ等で住民が主体となって計画をたてる。
 - ・地元の自然素材を用いて整備する。
 - ・ボランティア等により清掃活動を行う。
- 等の工夫により、地域個性が生まれ、愛着の持てる歩道がつくられる。そのことで地域住民にとって本当に利用しやすい空間が形成され、長い間その空間は維持されていく。



住民と行政、関係団体等との協働による計画策定



地域の植物を焼き付けたタイルを歩道に貼り付けることで、より愛着が生まれる。

(事例：世田谷区梅ヶ丘)

【タウンモビリティ³の実施】

タウンモビリティを実施することで、高齢者や障害者等の外出頻度が増え地域が元気になる。また電動スクーターの走行環境が見直されるようになり、地域のバリアフリーも推進される。



(事例：らくらくえんタウンモビリティ)

1 コミュニティバス：従来の大型路線バスでは通れないような狭い生活道路に小型バス（コミュニティバス）を運行することにより、路線バスの停留所まで行くことが困難な交通弱者の利便を向上することを目的としている。

2 STS：高齢者・障害者など公共交通機関が利用困難な層に限定して送迎サービス等を行う交通システム。

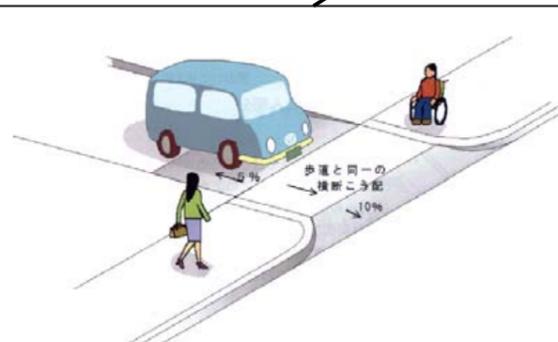
3 タウンモビリティ：高齢者・障害者が都心部で買い物をするときに車いすや電動三輪車等を借りて介助者に付き添ってもらい買い物をするシステムをいうが、買い物だけでなく様々な人とのふれあいなど高齢者・障害者のリハビリテーションの意味も大きい。

4 スムース横断歩道：横断歩道を車にとってハンプ構造となるよう盛り上げることで、歩行者にとっては歩道と横断歩道の段差が減少し、横断歩道の通行がスムーズになる。



【スムーズ横断歩道⁴の採用】

スムーズ横断歩道(横断歩道を歩道の高さまで上げることで歩行者はスムーズに通行可能となり、自動車にはハンプとなる)とすることは、歩行者の円滑な移動を可能にするだけでなく、その路線の通過交通の減少に繋がり、より安全な歩行空間を形成できる。



(資料：道路の移動円滑化整備ガイドライン)

【公園の整備】

様々な工夫を施すことで、多くの人が利用しやすく、そして楽しめる公園を形成できる。



ガラス張りの転落防止の壁にすることで、視線の低い車椅子利用者も景色を楽しむことができる。



長い坂では途中で休憩スペースを設けることで、車椅子利用者も安心して散策が楽しめる。



施設等の配置を示す案内板と、景観に配慮された誘導ブロックの設置で、より利用しやすい公園となる。



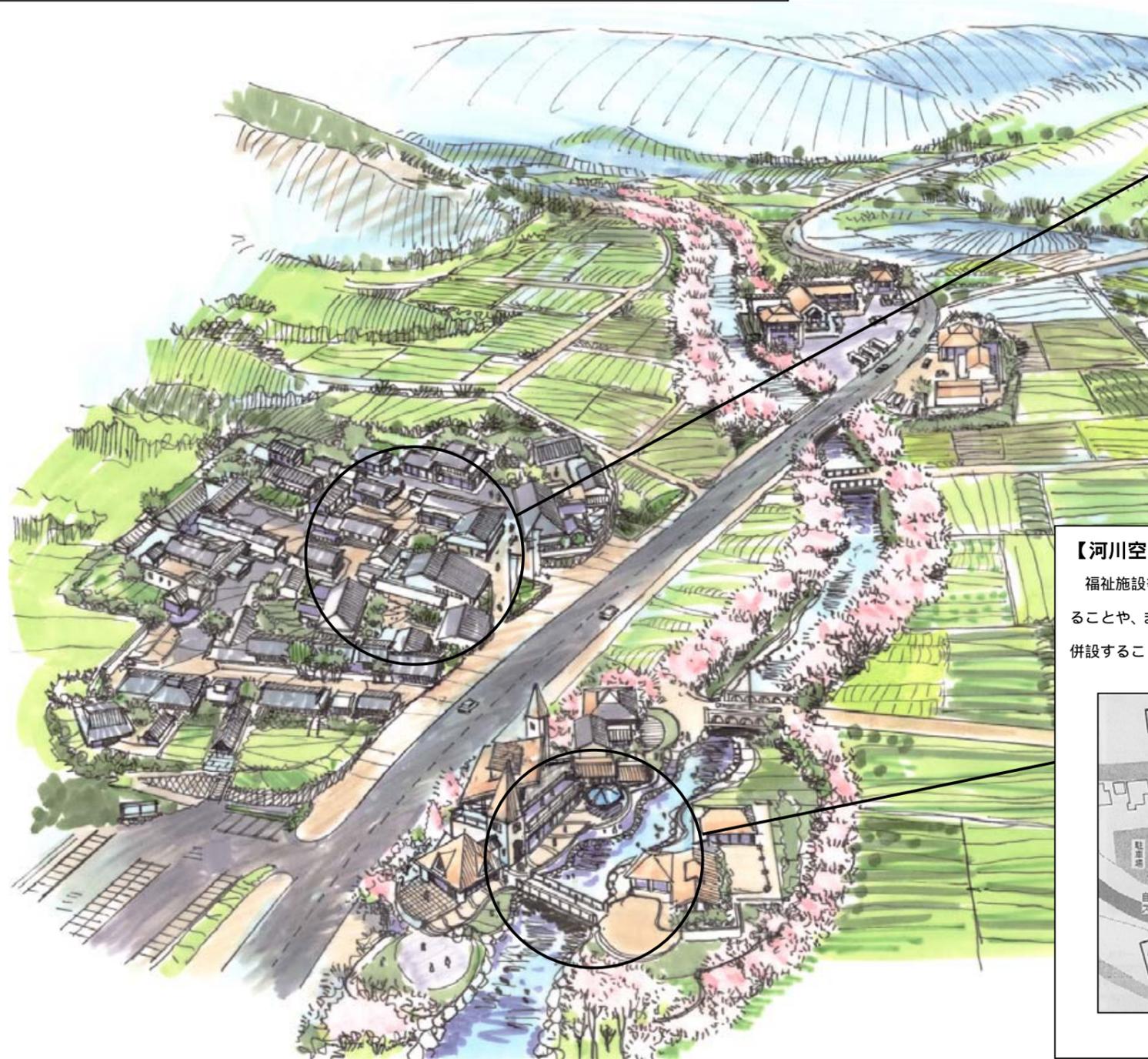
遊具にもスロープを設置し、床面をフラットとすることで、車いす利用者も楽しめる。

(事例：上段 - ふれあいの庭、下段 - 国営明石海峡公園)

ユニバーサルな中山間地のイメージ(一例)

【コミュニティバス、STSの運行】

鉄道や路線バス等の公共交通機関の運行頻度が低い、または運行していない地域においては、コミュニティバスやSTSの導入により、高齢者や身障者等を始めとした移動制約者も自由に、移動することが可能となる。



【観光地特有のバリアフリー整備】

高齢者、身障者等の旅行者が近年増加している。観光施設・宿泊地におけるバリアフリー(ハード)整備や介助・接遇、その他工夫は、観光客の増加につながり、地域の活性化へと発展する。



A5 サイズで持ち歩きやすい車いすおでかけマップ

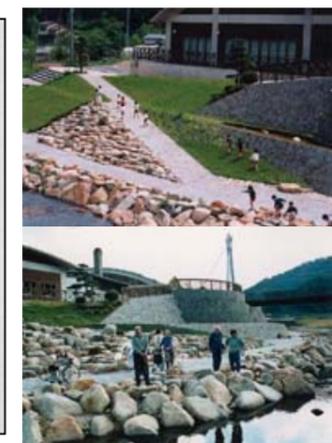
(事例：岐阜県高山市)



多目的トイレを数多く設置している(上)。施設の入口はスロープにより段差を解消している(下)。

【河川空間の特性を活かした福祉拠点、地域交流拠点の形成】

福祉施設等(病院、介護施設、高齢者住宅等)を河川沿いに集積させることで、河川の効用をリハビリ等に活かせることや、また(施設集積により)効率的な福祉サービスを提供することが可能となる。また集会場や交流広場等を併設することで、地域交流の拠点ともなり、世代間交流も活発となり地域活性化にも寄与する。



(事例：島根県吉田村)